

「史蹟めぐりAコース」

1 参加学年・人数

全校生徒（計 108 人）

2 日時・場所

令和 2 年 11 月 13 日（金） 垂水市新城・柘原方面

3 史蹟の名称・時代・特徴について

（1）名称・時代

- ▶ 俣江観音・俣江五輪群：観音像は推定 400 年前のもので，制作者不明。
昔から安産の仏として信仰されている。
- ▶ 柘原貝塚：3,500～2,500 年前（縄文時代）平成 7 年以降の発掘調査にて埋葬された人骨などが発見された。
- ▶ 国一様のお墓：国一様とは呉鑑和尚のこと。「国中で一番すぐれた人」として崇められた。
- ▶ 神貫神社：古代神木大明神社と云われ，創祀は古く，神木村（新城）の記録は 8 世紀初めにさかのぼる。
- ▶ 松尾城入口：応永（1394～1427）年間に伊地知氏によって築城。江戸時代になり，垂水島津久信の子久章が寛永 13（1636）年に分家して松尾城の麓に居館を建て新城島津家を興した。
- ▶ 新城お仮屋：天正 2（1574）年，島津義久から新城地頭に任じられた鎌田出雲守政近が設けた仮屋。
- ▶ 西郷南洲翁仮宿跡：明治六年の政変（1873 年）で下野した西郷は帰郷して各地で狩猟を行い，垂水大都の上田家にも宿泊した。
- ▶ おろごめ：400 年近く続く伝統行事。6 月に行われる。
- ▶ 切目王子神社：創建にまつわる女性は，645 年の大化の改新の立て役者中大兄皇子（のちの天智天皇）が寵愛した当時軽砂の出身大宮姫ではないかという話が伝わっている。
- ▶ 鹿児島神社：下宮神社。奈良時代末期に創建されたと伝えられる。成立時期は不明だが，鹿児島神宮，鹿児島市の鹿児島神社と深く関連のある神社であり，桜島を神体とする神社と考えられている。

（2）特徴

本校から垂水を南下するコースとなっており，細長い垂水の地形を実感しながら，縄文時代から現在に至るまでの長い歴史に触れ，様々な時代における人々の信仰や暮らしに思いを馳せることができるコースとなっている。さらに「おろごめ」などの無形文化の伝承についても感じることができる。

4 地域との連携について

垂水市観光協会の川崎あさ子さんの協力を得ており，その紹介で垂水郷土史研究会会長の瀬角龍平さんや新城公民館の山田さんの協力も得た。

5 工夫した点

このコースは、縄文時代という遙か昔に存在した私たちの祖先や数少ない稲作の盛んな地域として重要な場所であった新城，そしてそこに生きた人々の信仰や暮らしを知ることができるよう工夫した。

柘原貝塚では，平成7年以降の発掘調査にて，人骨・イヌの骨，土器など縄文後期から晩期初頭にかけての遺物が発見されたことを知り，この地に古代人が生きていたという事実に触れ，その暮らしに思いを馳せることができる。

また，神貫神社では，勢力を伸ばし遠く垂水まで及んでいた社領が，平安時代に八幡神社である手貫神社（上之宮神社）との抗争に敗れ，新城だけとなったという歴史を知り，敷地内に建てられた西南の役戦死者の招魂墓，日清・日露戦争の戦死者の招魂碑，大東亜戦争の慰霊碑などを見ることによって，この地の人々が関わった様々な戦いの歴史を知ることができる。

西郷南洲翁仮宿跡では，西郷隆盛がこの地をよく訪れており，山野や海で狩りや漁をしていたことを知り，生徒がよく知る歴史上の有名な人物と垂水との不思議な関わりを感じることができる。この他にも，藩政時代から続く端午の節句の伝統行事である「おろごめ」の歴史を知るなど，数々の有形・無形の文化財に触れつつ，総距離約21kmを踏破した。

6 取組の様子



7 参加生徒の感想より

- ▶ おろごめでは，昔，馬を選別する時に馬を穴の中に入れて選別していくと聞いて驚きました。そして，それが今も遊びみたいな感じで続いていると聞いて歴史を感じました。
- ▶ 今回の史蹟めぐりは，距離があって，そのぶん歴史について，垂水のことについて学ぶことができたのでよかったです。…史蹟めぐりはとても楽しくて，見たことないところや，知らなかったことなどが次々でてきて飽きません。説明などを聴いて勉強し，もっと深いところまで知りたいと思うことができました。
- ▶ 神貫神社は階段を登り終わると一気に辺りの雰囲気が凛とした空気変わっていて神々しいなと思いました。
- ▶ （神貫神社）説明の太宰府から大伴旅人が軍を率いて垂水まで及んでいたと書いてあったのですが，福岡県方から来たことを想像すると，かなり遠いところからわざわざ来たのだと驚きました。